



Title	教会観によって生まれる教会建築の形
Author(s)	川島, 洋一
Citation	基督教学, 19, 1-23
Issue Date	1984-08-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46431
Type	journal article
File Information	19_1-23.pdf



教会観によって生まれる教会建築の形

川 島 洋 一

一、はじめに

宗教性と工学との関係を明確に二分した状態で、宗教建築について論じる事はできない。

キリスト教に関する建築物（教会建築）においても同様であり、むしろ互に歩み寄りながら、両者に立って論じる事も重要であろう。

本研究は、各教会・教派の根底に潜む教会観を手掛かりとして、教会建築の形態を決定づける要因を明らかにする事を目的としたものである。すなわちそれぞれの教会観から考えられる建築的な要素を「建築的条件要素」として求め、教会組織内での動きとこの要素との関係、あるいは動きを包む空間及び構成要素との関連を明確にし、実際例としての教会建築の形態との比較によって、その要因を探るものである。

二、教会観から生まれる建築的条件要素

二、一 日本基督教団の教会観と条件要素⁽¹⁾

（歴史的教会観） 一つの教派と考えられる日本基督教団（以下教団とする）は昭和十六年に設立された⁽²⁾。それま

で教派に別れていた日本のプロテスタント教会は、軍事色の強まる中で行政的な強い指導によって統合され、この教団の設立となった。従って敗戦後、この指導が解除されると教団設立以前の状態にもどる動きが現われた。同十二年の旧日本基督教会から始まり聖公会、ルーテル教会等が脱退していった。三十年代以降はこの動きも静まり、今日では内部充実を計っている。従って教団に所属する各教会は、十六年以前の教派的伝統が影響されて今日に至っていると考えられ、教会観の形成にあたってはこの歴史を考慮する必要がある。明治から昭和初期までに各国の宣教師に指導されて組織された教派の中で、特に教団成立時に関係した教派とその伝統的姿勢をまとめ更にそれぞれの教会観を考えると次の様になる。また各教会観から考えられる建築的条件要素を（アルファベット小文字以下同じ）記す。

① 組合主義的教会観―(a)自由尊重

旧日本組合基督教会（成立明治十九年）を母体。教会政治は各教会自由意志尊重（会衆派）。本拠地は関西地域。

② 日本基督教会の教会観―(b)権威・形式尊重

旧日本基督一致教会（成立明治十年）を母体。各教会組織の会議決議重視（長老主義的）。本拠地は関東地域。

③ メソジスト教会的教会観―(c)管理性尊重

旧日本メソジスト教会（成立明治四十年）を母体。教会政治は監督主義的。本拠地は東海地方、瀬戸内海沿岸地域。

(組織的教会観)⁽³⁾

教団の行政は「教憲」によって定められ、実行面の「教規」によりその行政が行なわれ、教団總會を最高政治機関とし教区制により運営されている。日本全国を一六教区に区分し、更に分区、地区、支区を置き教会機能の充実化を計っている。また会員数によって第一、第二種教会と伝道所として教会の規模を区別している。

教団あるいは各個教会の財政は、信徒の献金、寄付金及び教会財産収入で運営され、教区負担金としてその一部を

教団事業経費に当てる。従って財政的には信徒各自の献金、寄付が土台となって、教会、教区、教団を支えている。これらの組織的な面から考えられる教会観は次の二点となり、各条件要素も考えられる。

- ① 民主主義的機構——(d)話し合う場の重視
- ② 財政信仰的協調性——(e)教会相互間の親睦

(現状にみる教会観)⁽⁴⁾ 教団に所属する全教会は約千七百余りで第一種が四六%、第二種三九%、伝道所一五%となり、自立する(一種教会)教会は半数にも達していない。また教会と牧師も都市に集中し、教師不在の教区もみられる。信徒は約二〇万人(日本の総人口の〇・二%以下)で、日本での伝道の困難性をみる。更に信徒数の内容をみると名目上の信徒(別帳による)が約三分一存在し、活動している信徒は一四万人程度である。

各教会では信仰の基盤となる礼拝出席は平均三七名で守られていて、他の集会では祈禱会、聖書研究会出席は平均一〇名にも達していない。従って教会は日曜日を中心として活動している事がわかる。教会学校(旧日曜学校)では約九割の教会が開校し、平均四〇名前後の出席となっていて、教師も一校平均八名奉仕している。幼児・児童教育を重視して幼稚園・保育園を付属させている教会も約二割あり、幼ない時からのキリストとの出会いをその基盤としている。

各教会の財政は貧困であり、年平均収入は五百万円にも及ばない。内容的には月定献金が約六割、礼拝献金二割となり、信徒の献金を基礎とし特に月定献金への依存度が高い。支出では教師謝儀が六割以上で、各教会は教師の生活を支える事で精一杯の財政である。

この様に伝道効率の悪さと教団全体の弱さが目につくが、発展的にみると、次の様な教会観と各条件要素が考えられる。

- ① 教育・教師の都市集中傾向の是正―(f) 地方伝道の必要性。② 信仰的弱体傾向と日曜中心活動の是正―(g) 日常生活の場。③ 幼児・児童教育と社会福祉事業の重視―(h) 付属施設必要。④ 財政的貧困の是正―(i) 伝道効率の強化。

(信仰告白による教会観)⁽⁵⁾ 昭和二十九年の教団総会時に生まれた「日本基督教団信仰告白」は前文と使徒信条によって構成され、前者は福音主義的(プロテスタント的)信仰告白が明確化され、聖書、贖罪、赦しと潔め、教会の四点に基盤を置き、後者は告白する者自身への信仰告白で、父なる神、イエス・キリスト、聖霊の「三位一体の神」が基盤である。

さて前文における内容から教会観及びそれぞれの建築的条件要素は次の様に考えられる。① 自己と他者との関係

- による信仰―(j) 地域社会との融合性・密着性―(j₂) 威圧性否定による人間的デザイン―(j₃) 全ての人間への神の問いかけ(伝道)。② 信仰者相互の一体的連体関係―(k₁) 同一空間における一体性感覚高揚の場―(k₂) 語る教師聞く信徒という感覚の超越。③ 信徒の主体性―(l₁) 空間への積極的な働きかけ―(l₂) 自発的活動の場の尊重―(l₃) 自らを語る容易さを持つ場の設定。④ 礼拝全体が神への「献げ」と奉仕―(m₁) 積極的な礼拝への参加指示高揚―(m₂) 誇張された形式的礼拝の否定性。⑤ 説教は神の御心を説く行為―(n₁) 語りやすく聞きやすい場―(n₂) 語る、聞く、歌う行為の重視―(n₃) 必要以上の礼拝気分高揚の拒否。⑥ 聖書にのみ証しされる―(o₁) 偶像化と神格化を拒否する空間構成―(o₂) 外圧的な証し、雰囲気的な神聖化否定の場。

次に信仰告白について同様にと考えると、① 三位一体の神―(p₁) 信仰的基盤の確立としての場の設定―(p₂) 讚美告白祈りの重視。② 神の愛と罪―(q₁) 自己否定からの自己確立的空間―(q₂) 自由意志高揚の場―(q₃) 全ての愛のシンボル化。③ 十字架―(r₁) 教会シンボルとしての十字架重視―(r₂) 主体の置きかえとしての犠牲心の表現―(r₃) 神と人間との対話を基盤

とする空間—(r₄)神と人間、人間と人間を結ぶ象徴性。
 ④ 信徒同志の交わり—(s₁)共に生きる意識 高揚の場—(s₂)教会を支える基盤としての同一性。 ⑤ 永遠の生命—(t₁)神への讃美と感謝(祈りの場重視)—(t₂)恐怖、不安の超越性を持つ空間—(t₃)自らの存在意識化 高揚。

以上によって教団の体質の中に存在すると考えられる教会観について試みとして述べた。

更にそれぞれの教会観から教会建築に結びつく要素を、建築的条件要素として取り上げてきたが、これらを表二—一の横例にまとめる事とする。

二、二 教会組織内における行為(活動)と建築的条件要素⁽⁶⁾

(内部行為と外部行為) どの教会にあってもその活動は、教会建築の中で行なわれる場合と、外部で行なわれる場合がある。最も中心的な活動は、内部で行なわれる礼拝であらう。

本稿においては、この内・外の活動を区別するた

表 2—1 建築的条件要素と基本的な内部・外部の行為

(関連性のあるものを○印とする)

教会観 記号	歴 史			組 織			現 状			前			文			使 徒 倡 条										
	記 号			記 号			記 号			記 号			記 号			記 号										
	a b c	d e	f g h i	J1J2J3	k1k2	l1l2l3	m1m2	n1n2n3	o1o2	p1p2	q1q2q3	r1r2r3r4	s1s2	t1t2t3												
建築的 条件要素	自由尊重 權威形式尊重 管理性尊重			話し合う場重視 教会相互間の親睦			日常生活活動の場重視 地方伝道活動の場重視 伝道活動の場重視 日常活動の場重視 伝道活動の場重視 日常生活活動																			

めに、前者を「内部行為」、後者を「外部行為」とする。

さて内部行為は、神を讃美したり種々な集会を持ち、信仰を高めたりあるいは信徒間の交わりを持ち、教会の一体性を計る事がその主な行為であり、教会員中心の活動といえよう。⁽⁷⁾ その行為の内容を整理してみると、最も重要な行為としての「礼拝行為A（記号はアルファベット大文字とし以下同じ）」があり、また交わりとしての「集会行為B」が考えられる。この行為には複数の動きが考えられ、それぞれ「会員集会B¹」、「伝道集会B²」、「社会活動の集会B³」となり、これらは外部行為としても重要なものである。更に教会学校を支える「教会学校C」、また保育所等の「付属施設D」等が内部行為として上げられよう。

外部行為については、その対象は一般社会での活動であり、伝道の場としての行為となる。従って「伝道行為E」、また「社会行為F」の二つを上げる事とする。

（内・外部行為と建築的条件要素） さて前項で試み的にまとめられた教会観及び建築的条件要素と、内部行為、外部行為の関連性をまとめると表二一となる。すなわち横列に教会観とそれぞれの条件要素を置き、縦列に各行為を並べて両者に関連があると考えられる部分に○印をつけたものである。

礼拝行為に関しては信仰告白上での教会観と結びつきが強く教会建築上、各条件要素を満足させる必要性が高い。集会行為では現状組織の拡張への教会観と結合しているがの特徴であろう。教会学校にあっては信仰告白前文への理解を求める行為と関連し、付属施設にあっては集会行為と同じ関連性を示す。

外部行為では、伝道、社会行為ともに現状からくる教会拡大への教会観との関連性がみられ、社会に開かれた教会建築空間の創造が求められているといえよう。

（内部行為と外部行為の関連性） 各行為が教会観と深く結びつき、この関連性を包むための建築空間が、どの様

な要素を必要としているかについて表二―一で述べてきたが、ここでは、更に関連性を細分化し、各行為間の結びつきをみる事とする。

図二―一は現状にみる各行為間を、線で結んだものであり、線の太さは緊密さを示す。

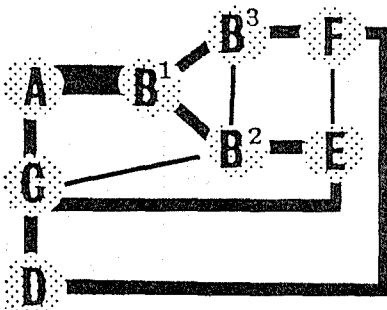
さて、図二―一でも明らかなように、付属施設の有無によって教会学校Cと社会行為Fが異なる動きになると考えられる。従って、付属施設Dは、行為C、Fを高揚させる原動力となっているといえよう。その他の動きは行為Dに影響されずにその相互関係を保っているが、中でも礼拝行為Aと会員の集会B¹との関連は最も強い。

二、三 内部行為から生ずる諸空間と構成要素

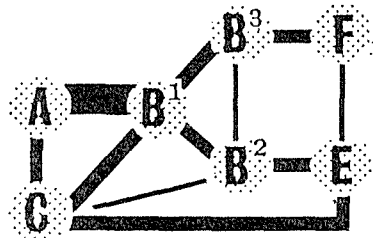
(内部行為と諸空間) 四つの内部行為A、B、C、Dを包む空間として、次の各部屋が考えられる。

礼拝行為Aにおいては、教会建築の中で最も中心的で最も重要な空間である礼拝室の存在である。規模的に小さな教会では、この空間のみの建築もあり、教会建築は礼拝室造りから始まるといっても過言ではあるまい。更に礼拝行為を進めるための各機能があり、そのための空間がそれぞれ必要となる。祈りを共に行なう祈禱室、教師(牧師)が説教を生み出す、あるいは諸活動を行なう牧師室(牧師館に設置する場合もある)

(注) 記号 A, B…は基本的行為



(I) 付属施設 D がある場合



(II) 付属施設 D がない場合

図 2-1 それぞれの行為の関係

る)、また讃美歌を練習したり聖歌隊の活動の場としての聖歌隊室、更に礼拝に参加しやすくする母子のために配慮された母子室等が上げられよう。

次に会員の集会行為に関しては、集会室、会議室が考えられ更に重要な空間は、ホールと食堂の空間である。前者にあつて自然な出会いの中から生まれる交わり、後者にあつては食事を共にする喜びを味わい一体感を高める効果を持つ。その他各行為から生まれる諸室によって、教会建築は構成されている。

(諸空間と条件要素との関連) 表二―二は横列に教会観と条件要素を、縦列に行為と諸室を並べて相互の関連性をまとめたものである。

特に強い関連性をもつ諸室をみると、礼拝室が最も多く、次に教会学校のクラス室や集会室が多く、これらの諸室にあつても無造作な空間造りは避ける必要があり、こうした所に宗教建築の難解さがある。更に食堂の空間にあつては交わりとの結びつき

表 2-2 建築的条件要素と基本的な行為による教会堂の空間
(関連の強い順に●○△印とする)

教会堂の空間	教会観	記号	教会堂の空間	歴史	組織	現状	前										文										使徒信條												
							月										文										使徒信條												
							己	信者	信徒主体	献	行	説教	聖書	三位	愛・罪	十字架	交わり	永遠生命																					
a	b	c	d	e	f	g	h	i	J1	J2	J3	k1	k2	l1	l2	m1	m2	n1	n2	n3	o1	o2	p1	p2	q1	q2	q3	r1	r2	r3	r4	s1	s2	t1	t2	t3			
内 部	礼拝行為A	A1 A2 A3 A4 A5 A6	聖堂聖壇聖幕内 昇降師歌子部 昇降師歌子部							○			●	△				●●●	△	●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	集会室B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●				●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行爲B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	集会室 一議 書 教師室・聖壇			●●● ●●● ●●● ●●● ●●● ●	○			○		○	○	○	○	○	○	△	●	●●●	●			●		●●● ●●● ●●●				●●● ●●● ●●●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外 部	教会学校C	C1 C2 C3 C4	クラス室 児童図書室 児童図書室 児童図書室			△ △ △ △	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○				
	付属施設D	D1 D2 D3	保育園 幼稚園 幼稚園			●●● ●●● ●●●	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○			
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	行爲E	E1	ファサード			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
行爲F	F1 F2	立地環境 アプローチ			○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △	○ △		

が強く会食も重要であるがむしろ交わりやすい機能をもたす事が大切となる。

(諸空間と構成要素の関連) 建築空間は天井、壁、床等が

組み合わせられて内部空間を作っている。教会建築でも同様であり、更に各空間に必要な建具あるいは備品が考えられそれらが集合して一つの機能を持った部屋となる。これらの各部分を構成要素とするならば表二—三のごとくに各部屋の構成要素が考えられる。

礼拝室にあつては特に椅子の要素が重要でその配置等によっては礼拝形式の形態が変わる。またホールにおける応接セット等は小さなコーナーでの交わりが自然に行なわれる要素となる。その他に教会建築としての特有な要素が多く含まれる。

(各空間の相互関係) 次に先に述べた諸空間(部屋)の相互関係をまとめると、図二—二となり、教会建築の規模によって三つのパターンとなろう。

小規模(伝道所等)の場合は、礼拝行為から生じる空間のみで、この空間(礼拝室)が集会室や教会学校関係を全て含むパターンであり、中規模になると礼拝室関係と教会学校空間が

表 2—3 内部行為における教会堂空間の構成要素

(必要度の強い順に●○△印とする)

各 行 為	分 類 記 号	椅 子							机・椅子		台・卓・原		棚		そ の 他 備 品			各 面				
		記 号							記 号		記 号		記 号		記 号		記 号					
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5	6	7	
教会堂空間 記 号	構成要素	説司金聖							教集子読多応		聖聖花洗説祭十		教聖架書聖		ログ下遊		黒視		チ 視		平立断開開天	
		教会衆歌							機書接		書ビ札教字		会書		ッウ		ヤ		口口			
		者者用隊							教書・目セ		朗 餐ン		会書		ンカ掛		(白示)		ル		部部	
		用用席席							師用習習的ト		読卓台盤台原架		信歌詩理		けは具		板板		ム 覺ン		(床壁)面窓口井	
礼拝行為A	A1 A2 A3 A4 A5 A6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
集會行為B	B1 B2 B3 B4 B5 B6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	B1 B2 B3 B4 B5 B6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	B1 B2 B3 B4 B5 B6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	B1 B2 B3 B4 B5 B6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	B1 B2 B3 B4 B5 B6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	B1 B2 B3 B4 B5 B6	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
教会学校C	C1 C2 C3 C4	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	C1 C2 C3 C4	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	C1 C2 C3 C4	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	C1 C2 C3 C4	●●●○	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	

(注) 記号 A 1, B¹ 4 等は各空間 (部屋)

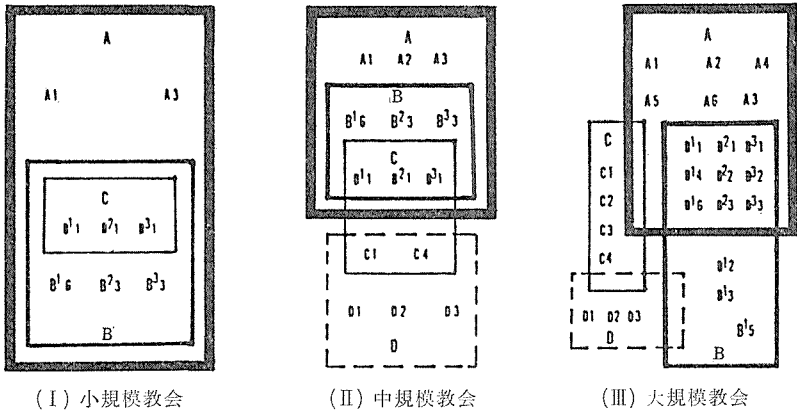


図 2—2 各空間 (部屋) の相互関係

分離し多少機能に適合するパターンを生む。更に大規模になると明確に各空間が分離し、教会建築の充実したパターンとなる。

この様に、宗教建築の内部空間を考える場合、一般的な建築と異なり、多くの宗教的要素をふまえた形での考察が必要であろう。

二、四 外部行為による諸空間と構成要素

(外部空間と諸空間) 内部行為と同様に考えるが、外部行為の場合は外部に影響を与え、と思われる面的な要素とすると、伝道行為 E からは教会建築の正面 (ファサード) の形が上げられる。また社会行為にあつては建物の位置が住宅地域あるいは商業地域にあるのか等の周囲の環境、更に教会への導入としてのアプローチが考えられよう (表二—二)。

(諸空間と条件要素の関連) さて表二—二によって外部行為から生じる三つの諸空間と条件要素との関連をみると、特にファサードが強く結びついている。教会の現状の教会観、あるいは信仰告白的なものの伝達の役目を持っていて、十字架の存在が注目される。

ファサードは外部に開かれた教会の顔である事を考えると、条件要素としての重要性は高い。

(諸空間と構成要素) 三つの諸空間を構成する要素をまとめる

と、表二―四のごとくに考えられる。

重要な要素ファサードにあつては、特に塔の存在と開口部(窓・玄関)の形が強く関連し、外部行為の全てを担っている。他の要素としては敷地状況あるいは周囲の雰囲気等が考えられる。

以上によつて教会建築を生み出す側(建主ともいえる)の立場を種々な方面から考察してきた。神学上での考察も重要であるが、別の機会に論じる事とし、本稿では現実的な立場で宗教建築を分析してきたが、次章ではこの試みの考察と、現実的に存在する教会建築の接点について述べて、より具体的にその形態を明らかにする。

三、構成要素とその形態

三、一 内部行為と礼拝の形態

(内部行為と礼拝室) 前章において日本基督教団を対象とし

て、教会建築の空間を創造するための各要素を求めたが、その中でも最も中心となる礼拝室は、日本プロテスタント教会の他教派にあつても、あるいはカトリック教会においても同様に重要な宗教的機能を持っているといえよう。また教会建築造りは礼拝室を包む建築(会堂と一般的に呼ばれる)造りを中心として他に広がり、複合した建物となる。従つて礼拝室空間を創造する事は教会建築全てを決定する事とながり、多くの建築的条件要素と強く結びつく。

表 2—4 外部行為における教会堂空間の構成要素
(必要度の強い順に●○△印とする)

分類	記号	要素	記号	立面	平面	環境
				39 40 41 42 43	44 45 46	47 48
各行為	記号	教会堂空間		壁開口部 開口部 面窓	庭道門	自社 然会
伝道	E 1	ファサード		●●●●●		
社会	F 1 F 2	立地環境 アプローチ			●●●●	●●

わけである。先の表二―三において、礼拝室の構成要素の中で平面形と椅子の重要度が高くなっているが、これらは礼拝室の形態を決める上で最も大切な事といえる。

(礼拝室の形態)⁽⁸⁾

旭川市内に現存する一五棟の教会建築を対象として、礼拝室の形態を整理すると、表三―一となり、五つのパターンとなった。

内容を見ると対面形は講壇の形によって二つのパターンとなり講壇が後方へ突き出た形で椅子が講壇に平行配列である形態(対面形B)が最も多く、約半数の教会建築に採用されていた。他に対面形Aが四棟、祭壇隅角形二棟、他は各一であった。

最も多い対面形Bは旭川での特殊事情とは考えられず、日本における一般的な形態と推察する。歴史的にも初期の教会建築として使用されたバシリカ形式⁽⁹⁾と類似し、また学校建築の講堂、教室の形態に似ていることから説教等を聞きやすい条件を満たしているパターンでもある。しかし条件要素を全て満足させているとはいえず、語る側と聞く側の一体感を高揚させる形態には適していない。

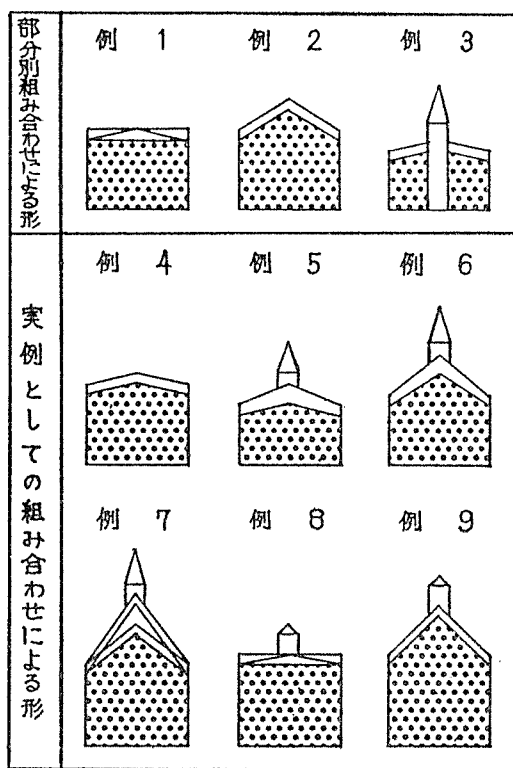
この様に一つの例として礼拝室を対象としたが、全ての空間

表 3—1 主要教会建築 (旭川市) 礼拝室平面の類形化

No.	対面形(A)		対面形(B)		C形		祭壇隅角形		特殊形		備考
	新教会名	旧教会名	新教会名	旧教会名	新教会名	旧教会名	新教会名	旧教会名	新教会名	旧教会名	
1	日キ教団旭川聖光(伝入口片隅)	栄 広	日キ教団六条(入口側壁)		セブノスデー旭川				五 条(a)	神 居	
2	日本聖公会旭川(入口側壁)	六 条	日キ教団豊岡(入口片隅)						大 町(b)		
3			日本ルーテル教団旭川								
4			日キ教会旭川								
5			バプ連盟旭川								
6			日本ナザレン旭川(入口側壁)								
7			日本メソヂスト協キ旭川(入口片隅)								
小 計	2	2	7	0	1	0	0	2	0	1	10 5
合 計	4		7		1		2		1		15
全例に対する割合(%)	27%		48%		7%		13%		7%		100%

(注) 1979年調べ及び旧教は全てカトリック教会

図3—1 外部行為構成要素・ファサードの形
(169例対象とした典型例)



(日本基督教団の場合)

(部屋)を対象として考察する事によって、内部行為の充実度を求め、教会建築の在り方を吟味する必要がある。

三、二 外部行為とファサードの形態

(外部行為とファサード) 礼拝室等と異なつて外に開かれた外部行為の中で、最も注目されるファサードは、先の表二—四で示した五つの構成要素があり、それぞれの要素が結合して一つの正面形を形造る。壁面の形は屋根型に左右され、更に妻側によつてもその形態は大きく変わる。また塔の有無、塔の形、塔の位置も大きく影響する要素となる。⁽¹⁰⁾更に玄関の位置と形、窓の配列と形も同様にファサードを決定する重要な役目を持つ。また表二—四では省略

されているが、材料や色彩もそれぞれの要素と深く関連する。

(ファサードの形態)⁽¹¹⁾ 当研

究室で調査した資料で、教団に属する一六九棟の教会を全国から任意に選定し、ファサードの形に関して統計的に整理すると、図三—一で示す形態となつた。ここでは屋根型と塔の形、及び正面幅と軒高の比等の要素に注目して処理し、各要素で最も多い形を単純に組み合わせた

ものが「部分別」の形であり、実際のファサードで最も多い例をみたのが「実例としての組み合わせ」としてまとめた。

前者では例三の中央塔型に特長があり、軒高を低くし塔の存在を明確に示す形態となった。しかし、このパターンは実例にはみられず、既存の教会建築でのこの形態使用は少ない事が理解できよう。

後者にあつては六タイプに整理されたが一例を除き、他は塔を持つパターンとなった。しかし塔自体の形は棟上に置いただけの塔であり、独立した本格的なものではない。また妻側を正面として切妻屋根の断面形をみせて、塔と共に昇高性を強めている。

教団の教会建築で多く用いられている形態が明らかになったが、他の教派についても今後整理する必要がある。

(玄関の形について)⁽¹²⁾ ファサードの一部を構成している玄関の形について、同じ様に教団の一六九棟を対象とした調査をみる事とするが、形態的には表三―

表 3-2 開口部 (窓・玄関) の形態分類と記号化

記号 No.		C						T				
		1	2	3	4	5	C	1	2	3	4	5
記号	形											
S		SC1	SC2	SC3	SC4	SC5	SC	ST1	ST2	ST3	ST4	ST5
AR		ARC1	ARC2	ARC3	ARC4	ARC5	ARC	ART1	ART2	ART3	ART4	ART5
BR		BRC1	BRC2	BRC3	BRC4	BRC5	BRC	BRT1	BRT2	BRT3	BRT4	BRT5
N		NC1	NC2	NC3	NC4	NC5	NC	NT1	NT2	NT3	NT4	NT5
C												
T												
P												

二で示すパターンとなり、それらを記号化して玄関の形を整理すると、表三―三に示す結果を得た。すなわち縦長長方形が最も多く四七%となり、次に多いのは横長長方形（約一五%）であった。また形態の種類では十一タイプとなり、特に縦長長方形のバリエーションが多い結果となった。

（窓の形について）¹³

同様に整理すると表三―四で示す結果となり、ここでも縦長長方形が四〇%以上であり、この形態のバリエーションによる窓形が多い。特に注目する点は、スリット型（細長長方形）のバリエーションがみられる事であり、このタイプは恐らく近年に建てられた新しいデザインの教会建築であらうと想像する。

以上により、外部行為の一例としてファサードの構成要素についてそれぞれ述べてきたが、教団に属する教会建築造りの実際のな姿が多少なりとも明らかにになった。しかし、これらの形態が教団の特有のパターンであるかについては、他の教派との比較によらなければならない。

四、教会観による形態的な比較

四、一 旧教と新教との比較

（礼拝室形態の比較） 礼拝室形態に関する統計はまだ未整理であるので、本稿では対象とした陳数は少ないが、表三―一でまとめたパターンを手掛かりとしてみると、旧教（カトリックのみ）の礼拝室形態は、祭壇隅角形や特殊形にみられるように新しいタイプへの取り組みを示し、むしろ新教（プロテスタント）の方が、オーソドックスな形態を示している。

これは次に述べるファサードの構成要素とは逆の傾向であり、伝統を重んじる旧教ではあるが、外観はともあれ新しい礼拝室形態造りへの取り組みが始まっているといえよう。新教にあってはまだその傾向がみられないが、旭川市に限った現象であるかは定かではない。

＜旧・新比較及び教団全国・道内比較＞

表 No.	形 態 教 派	S	AR										BR										N					他	な し	不 明	合 計
			S					AR					C					BR					C								
			S	C	2	3	4	5	AR	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3				
表 4 1	旧 教	実数		1			1	12			1					3	1	14	1									2			36
		%		2.8			2.8	33.3			2.8					8.3	2.8	38.9	2.8								5.6			100.0	
	新 教	実数			1		1	16		1				4	4	5		6	33		3		3	3	1					1	82
		%			1.2		1.2	19.5		1.2				4.9	4.9	6.1		7.3	40.2		3.7		3.7	3.7	1.2					1.2	100.0
	合 計	実数		1	1		2	28		1	1			4	4	8		7	47	1	3		3	3	1		2			1	118
		%		0.8	0.8		1.8	23.9		0.8	0.8			3.4	3.4	6.9		5.9	39.9	0.8	2.5		2.5	2.5	0.8		1.8			0.8	100.0
表 3 3	(教団) 全 国	実数	1	1				25		7	1			5	20		9	79		16		5									169
		%	0.6	0.6				14.2		4.1	0.6			3.0	11.8		5.3	46.7		9.5		3.0									100.0
	(教団) 全 道	実数			1			4						3	2		4	9				1		1						1	26
		%			3.8			15.4						11.6	7.7		15.5	34.5				3.8		3.8						3.8	100.0
	合 計	実数	1	1		1		29		7	1			3	5	22		13	88		16		6		1					1	195
		%	0.5	0.5		0.5		14.9		3.6	0.5			1.5	2.6	11.3		6.7	45.1		8.2		3.1		0.5					0.5	100.0
表 4 3	聖公会	実数							1					1	1			4		1		1	1								10
		%							10.0					10.0	10.0			40.0		10.0		10.0	10.0								100.0
	日・基 教 団	実数			1			4						3	2		4	9				1		1						1	26
		%			3.8			15.4						11.6	7.7		15.5	34.6				3.8		3.8						3.8	100.0
	日 基 教 会	実数						7							1			11		1											20
		%						15.0							5.0			55.0		5.0											100.0
	他教派	実数					1	5						3	2		2	9		1		1	2								26
		%					3.8	19.2						11.5	7.7		7.7	34.7		3.8		3.8	7.7								100.0
	合 計	実数		1		1	16		1				4	4	5		6	33		3		3	3	1					1	82	
		%			1.2		1.2	19.5		1.2				4.9	4.9	6.1		7.3	40.2		3.7		3.7	3.7	1.2					1.2	100.0

(フアサードにおける玄関) 道内に建つ
一八八棟を対象として
調査したものをまとめ
ると表四一となり、
旧教・新教ともに縦長
長方形のタイプが約四
〇%で最も多い形とな
った。また形態の種類
となると前者は九タイ
プ、後者は十三タイ
プとなり、対象教会の数
量的差はあるが、旧教
にあつては新教と比べ
てより形態的には統一
されている傾向を示
す。反対に新教では
自由な形を用いてフ

サード造りを行なっている傾向であるといえよう。

(ファサードにおける窓) 同様に窓についてであるが、表四―二をみると、両教会ともに横長長方形の窓が三〇%以上となり最も多い形態となった。また形の種類にあつては旧教が十タイプ、新教十五タイプとなり玄関の形態と同様な傾向を示した。

こうしてみると、礼拝室にあつては旧教が新しい試みを思考し、ファサードでは一定の形態を保つ教会建築を築き、新教では礼拝室は伝統的な形態で、ファサードにあつては種々な変化をみせている。

(ファサード形態の比較) 道内における主な教派の既存の建物を、写真で示すが、詳細な分析は後報を待つ事とする。

ただこの五棟のファサードは、前項で明らかになった傾向を素直に表現しているものと考えられる。

写真四―一に示す左から三棟は新教の建築であり、建設年代は明治期の名寄⁽¹⁴⁾以外は近年のものであり、ファサード造りの一面をみせている。他の二棟は旧教のカトリックとハリストス正教会の建物であり、建設年代は古いが、伝統性を保持した形態をみせている。

四、二 プロテスタント教会内での比較

(礼拝室形態の比較) 資料不足のため本稿では省略するが、旭川に限って述べるならば表三―一で示すように、十教会の中で一教会を除く他は全て対面形式を採用している事から新教内での礼拝室は教派によってあまり差異はみられないと考えられる。C形の一例は倉庫であつた建物を改築してこの形となつたのであつて、初期からこの形態による平面として建てられたものではない。

(玄関の形について) 道内における既存の教会建築(新教に属する)八二棟を対象として玄関の形をまとめる

と、どの教派にあっても縦長長方形が最も多くあまり差はみられない。聖公会、教団、日基の三教派の形態の種類をみると、日基の建物が四種類と少なく、教団、聖公会では八種類、七種類になっている（表四―三）

こうしてみると、教派間での特色は日基の玄関造りが他より定形化されている事といえよう。

（窓の形について） 同様に窓について整理された表四―四をみると、縦長長方形が多い聖公会を除くと他は全て横長長方形の形が最も多くなった。また形の種類では教団が最も多く十タイプとなり、聖公会が五タイプと少ない。日基の形態に注目すると、六種類の窓の形となっているが、横長長方形と変形を含む細縦長方形（スリット）を合わせると八五％となり、前項の玄関と同じ様に窓の形も一定化されていると考えられる。

五、教会観と形態についての一考察

（北一条教会を中心とした形態） 日本基督教会の北海道内に建つ教会建築は、プロテスタント教会の中でもその形態に特色がある事が明らかになった。そこで、主要な教会の外観を図五―一にまとめると、この形態が札幌北一条教会の旧会堂と強く結びついている事に気づく。

昭和二年に道内でも著名な田上義也の設計によって完成したこの建物は、残念な事について数年前に解体されたが、その手法は北海道に適した屋根型とゴシック風の尖頭、バラ窓を巧みに用いて、道内でも名建築の一つとして数えられた。⁽¹⁵⁾その後、昭和六年建設の遠軽教会⁽¹⁶⁾、同二十六年の旭川教会⁽¹⁷⁾、同三十三年の滝川教会更に同三十四年の聖園教会にこの形態が引き継がれたと考えるならば、先に述べた新教内でも特異な形態を保ってきた事とあわせると、より定形化された教会建築の出現となっている。

（教会観と形態）

このように考えるならば、前章で述べた教会観と建築的条件要素としてこれらを形成するため

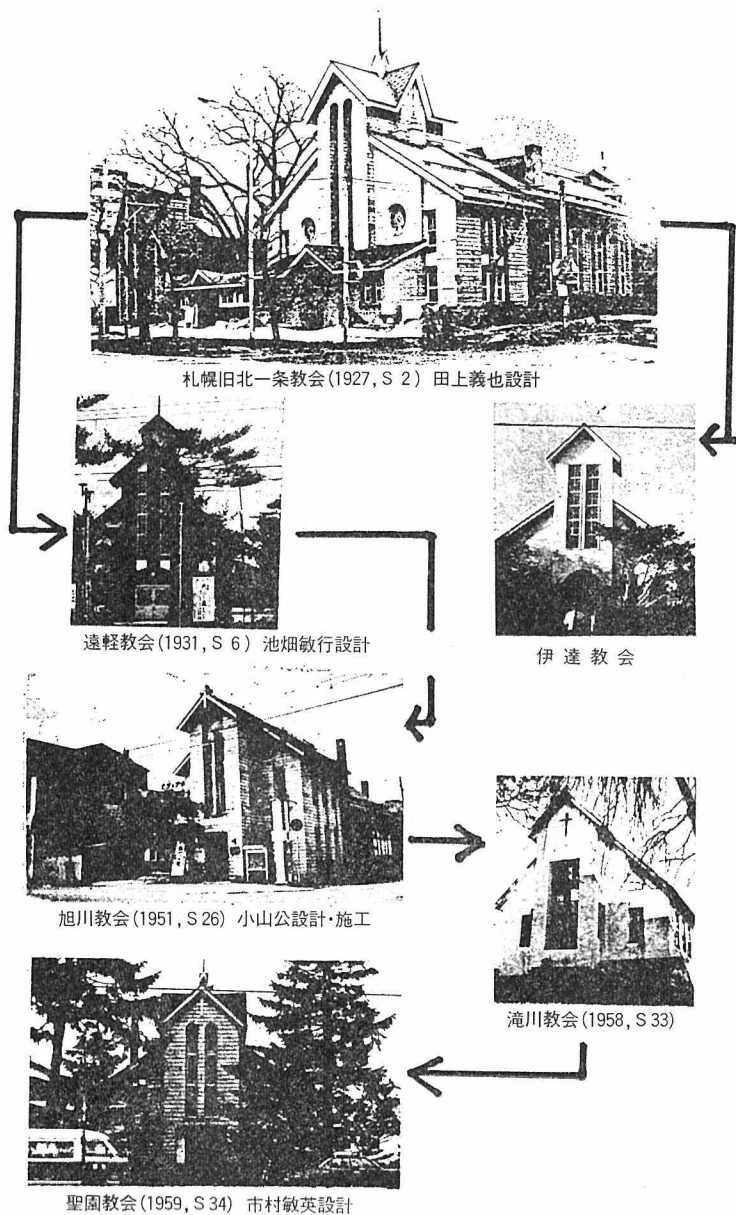


図 5-1 日本基督教会 (道内) 教会建築のパターン

の構成要素が一体化された姿を、少なくとも道内の日基教会の教会建築にみるのである。

すなわち、ある組織体の体質が同一である場合、そこで創造される物には必ずどこかに共通点がみられ、この共通点が基本となって他へ影響を与えると考えるならば、日基の教会観が示す形態は多少のバリエーションを含みながらも、一つの定まった形を示す教会建築造りとなる。

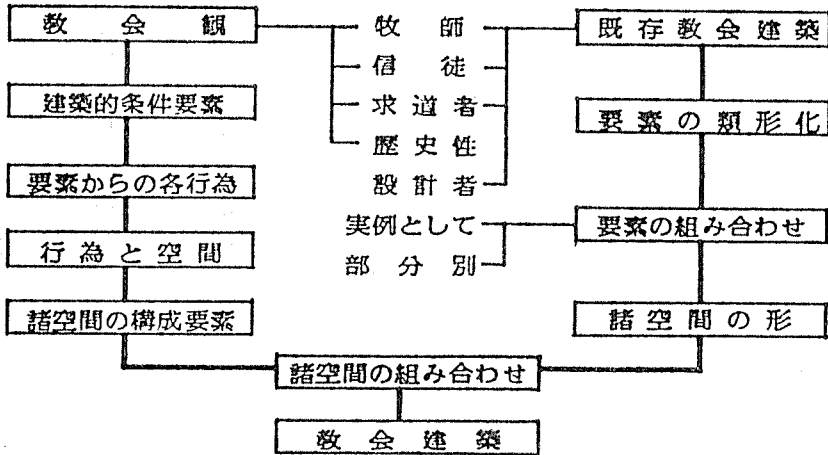
この様な考察が正論とするならば、旧教のファサードにみられた定形化に近い形態も、伝統性を重んじる教会観の反映であり、逆に教団における定まらないファサードの形は、歴史的な教会観が強く影響して合同以前の伝統が自然に建物に表わされているためであるといえよう。

(教会建築の形態)

以上によって、宗教建築の一つの例としてキリスト教会が建主となつて建設する教会建築について述べてきた。それは、宗教性を排除すると、学校建築等の講堂と同じ建築物となり、合理性・機能性を追求する事で終わる場合が多い。

しかし教会建築には神学があり、信仰的な証しがあり、更に通

表 5—1 教会建築の観察方法例 (フローチャート)



常の建築技術がある。そしてこれらの要素が一棟の中に同居する。神学が先行するかと思えば建築が先行する。こうした所に、教会建築の複雑さがあり、更に神秘さが宿るのであろう。

こうした難解な建築をみつめる時のフローチャートを試み的に表五⁽¹⁸⁾として示し、本稿を終える。

註

- (1) 第二章第一節は次の論文を参照。川島洋一「教会観によって生まれる教会堂の形(その一)」、足利工業大学研究集録、第二号、(一九七六)、47—52頁。
- (2) 日本基督教団史編纂委員会、「日本基督教団史」、日本基督教団発行(一九六七年)を参考とした。
- (3) 日本基督教団事務局編纂、「日本基督教団教憲教規および諸規則(一九六八年十月改訂)」、(一九七四)同出版局を参考とした。
- (4) 日本基督教団事務局編纂、「日本基督教団年鑑、一九八四」、第三十五巻、(一九八三)同出版局を参考とした。
- (5) 北森嘉蔵「日本基督教団信仰告白解説」、日本基督教団出版局(一九七三年)を参考とした。
- (6) 第二章第二節から四節までの詳細は次の論文参照。川島洋一「教会観によって生まれる教会堂建築の形(その二)」、足利工業大学研究集録、第三号(一九七七)、42—51頁。
- (7) 日本基督教団東京教区編、「信徒必携(新版)」、日本基督教団出版部(一九六五年)を参考とした。
- (8) 詳細は次の論文参照。川島洋一「旭川市におけるキリスト教会と教会建築(その一)」、北海道東海大学紀要、第一号(一九八〇)、51—52頁。
- (9) 建築学大系編集委員会編、「新訂建築学大系5、西洋建築史」、彰国社発行(昭和五十二年)を参考とした。
- (10) 詳細は次の論文参照。川島洋一「教会建築のファサードの形」、東海大学短期大学紀要、第十一号(一九七七)、24—28頁。
- (11) 詳細は次による。川島洋一「教会建築の形態論的研究(その二)」、日本建築学会秋季大会(中国)学術講演梗概集計画系九〇九四番(一九七六)、一九四二—一九四三頁。
- (12) 同と同じ論文、21—23頁を参照。
- (13) 同と同じ論文、23頁を参照。
- (14) 詳細は次による。川島洋一「道北地方の建築に関する調査研究(その一)」、日本建築学会秋季大会(近畿)学術講演梗概集計画系九一〇七番(一九八〇)、二〇八七—二〇八八頁。

- (15) 「失われた教会堂―札幌市北一条教会堂を保存する会の記録―」、札幌市北一条教会堂を保存する会（一九八〇）、を参考とした。
- (16) 詳細は次の論文参照。川島洋一「道北地方におけるキリスト教会と教会建築（その一）」、北海道東海大学紀要、第五号（一九八四）、25―47頁。
- (17) 次の論文参照。川島洋一「旭川市におけるキリスト教会と教会建築（その二）」、同左紀要第二号（一九八二）、25―53頁。
- (18) 詳細は次による。川島洋一「教会建築の形態論的研究（その四）」、日本建築学会秋季大会（関東）学術講演梗概集計画系九〇一七番（一九七九）、一八二八頁。

（付記） 本稿の一部は別々に発表してきた論文（脚註で表示）をまとめ、更に加筆したものである。また本稿の概要は昭和五十八年度北海道基督教学会第二十二回大会（旭川、北海道東海大学）にて発表した。